

令和4年度前期学校評価アンケート

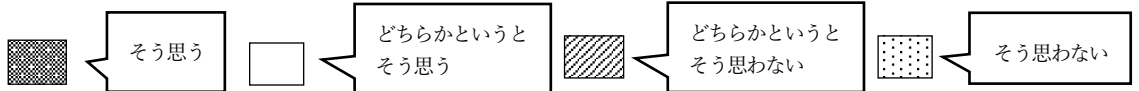
7月にご協力いただいた「前期学校評価アンケート」の集計について、簡単ではありますがご報告します。

須津小学校 グランドデザインより

本校の目標【願う子どもの姿】( )内は、(令和4年の結果:令和3年の結果:グランドデザインの目標数値)です。

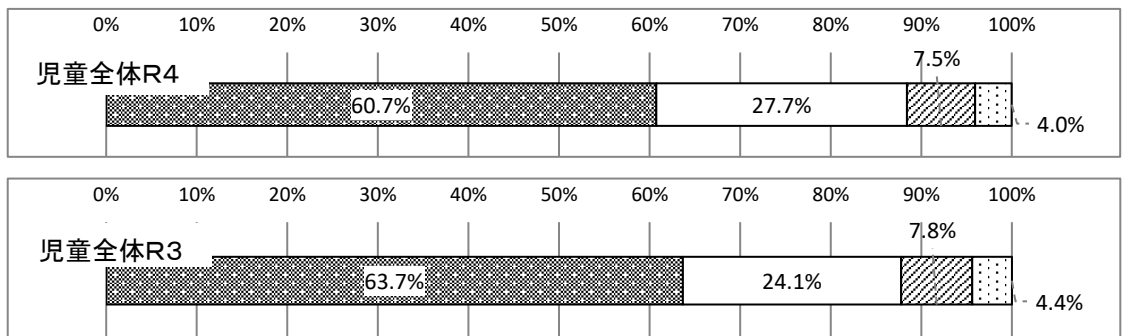
- ①学校へ行くのが楽しいと思う(88%:87%:90%)  
自分はたくましいと思う=失敗を怖れず挑戦している。(74%:69%:70%)
- ②自分にはよいところがあると思う(78%:79%:80%)
- ③元気なあいさつ、やさしい言葉遣いができている(86%:85%:85%)
- ④好きな授業があり、学習が分かる(93%:91%:85%)、友達の話を分かろうとして聴いている(95%:93%:95%)
- ⑤家庭学習が身に付く(89%:83%:80%)、ICTを授業で効果的に使う(72%:R3なし:90%)
- ⑥すすんで運動している(76%:81%:85%)

【結果と考察】



①「学校へ行くのが楽しいと思う」の設問に児童の88.4%が「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答しました。令和3年度の調査結果87.8%に比べ、僅かですが高い数値となりました。また、「失敗を怖れずに挑戦している」について74.7%の児童が「そう思う」

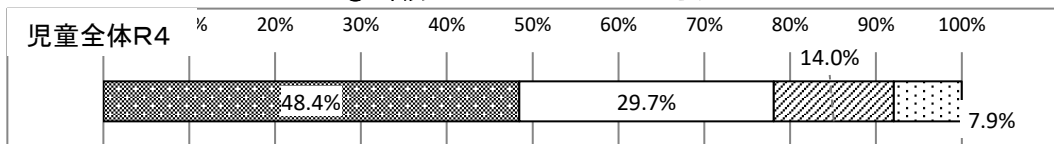
① 学校へ行くのが楽しいと思う。



「どちらかというそう思う」と回答しました。昨年度までの「自分はたくましいと思う」(昨年度69.5%)という設問が抽象的であったため、もともとあった「失敗を怖れずに挑戦している」という、より具体的な設問から児童にたくましい心が育っているかを評価しようと考えました。日々の学校生活の中で、目標をもち、あきらめずチャレンジし続けようとする児童が増えていることやチャレンジする場面が学校生活の中に幾つもあったことが、数値が高まった要因だと考えます。今後も、学校が楽しく、児童のたくましい心を育てるために挑戦する場面が多くある学校を目指していきます。

②「自分にはよいところがあると思う」の設問では78.1%の児童が「そう思う」「どちらかというそう思う」と回答しました。本校教育の重点目標「よさを発揮し みがき合う仲間」にもある「よさ」とは、自分のよさであり、友達のよさを意味しています。自分のよさに気付くことで、自分らしさを発揮し、生き生きと生活ができるようになります。自分に自信が付き、自己肯定感が高まるような場を具体的に設定したり、教職員がその子のよさを見付け、価値づけたりしていきます。例えば、学級での「いいところ見つけ」の伝え合いや図画工作科での作品鑑賞にいたるまであらゆる

② 自分にはよいところがあると思う



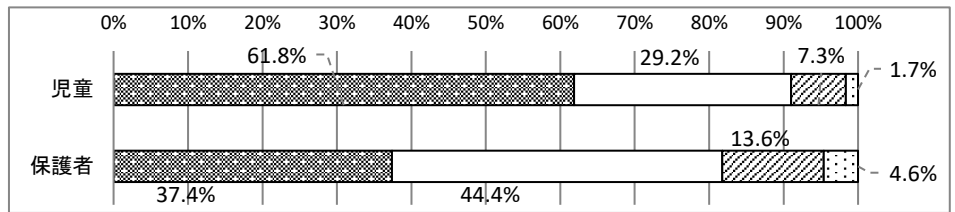
る場面で見付けたり、グループエンカウンターを定期的実施したりする実践を今後も続けます。

③「元気なあいさつ、やさしい言葉遣いができている」については、86%の児童ができていると回答しています。明るく元気な挨拶が校内でも地域でも広がることを願って、元気なあいさつができる子を、本校では願う子どもの姿の重要項目の1つにしています。

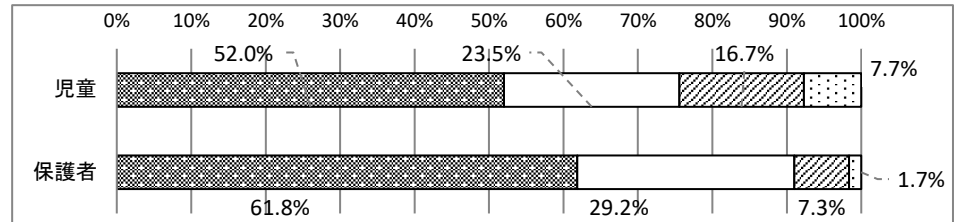
一方で、保護者の皆様や地域の方々は、もっとやさしい言葉遣いができることを望んでいるようです。また、右グラフの結果から、児童は自分がいさつできていることに気付いていないことも予想されます。児童自身が自信をもってあいさつをしていると思えるよう、学校中にあいさつが広がるような場や時間を設定します。

④「好きな授業がある 学習が分かる」「友達の話を分かって聴くことができる」については、それぞれ93%、95%の児童ができています。学校生活の大半を占める授業を、楽しく分かりやすいものにするにはどうすればいいかを常に学級で話題にしています。子どもたち自身が考えながら主体的・対話的で深い学びがすすめられていること、タブレットを使った学習が全学年で始まったり、各教室に設置されているICT機器をほとんどの教員と児童が使いこなすことができたりすることなどが高い数値が出た要因だと考えます。

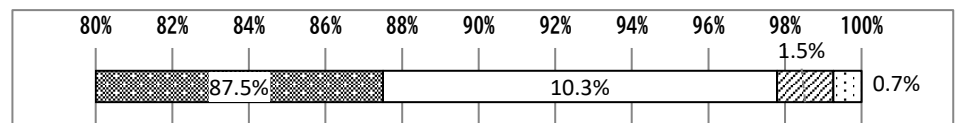
③ やさしい言葉遣いができている。



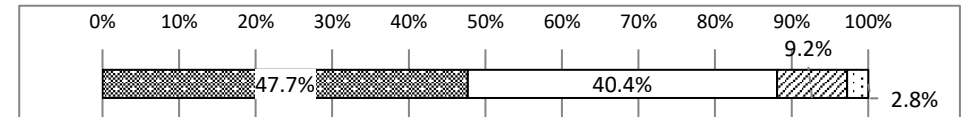
③ あいさつをしている。



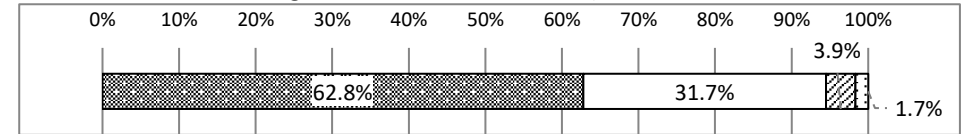
④ 好きな授業がある。



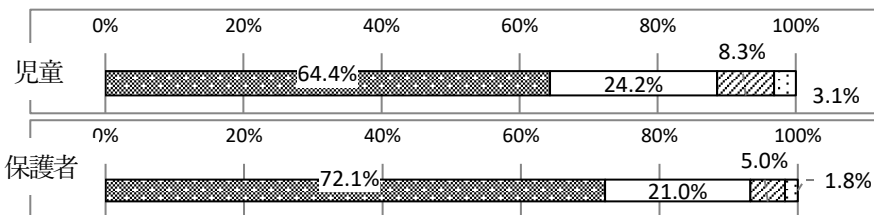
④ 勉強したことが分かる。



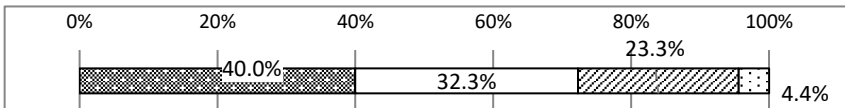
④ 友達の話を分かって聴いている。



⑤ 毎日宿題をする習慣が、身に付いている。



⑤ 授業で教育機器（ICT機器）を使っている。



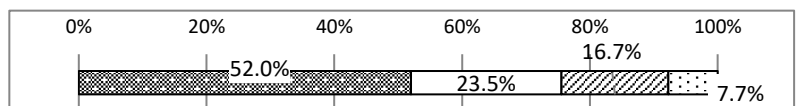
成果や頑張りが分かるものを教室に掲示したりするなどして互いの良いところを認め合ったりする場面を作りたいと思います。

⑥「すすんで運動している」の設問に、そう思うと回答した児童は76%でした。目標値85%に及ばず、コロナ禍で、運動をする機会が減っていることが分かります。学校では体育科の授業で、スポーツ庁から出されている保健体育の教師用指導資料を参考にして体を動かす機会を作ります。

また、外遊びが好きな子が多いので、学級で「みんなで遊ぶ日」を設定するなどして、休み時間に体を動かす機会を作ります。

スポーツ庁ホームページ → [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop04/list/jsa\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00001.htm)

⑥ すすんで運動をしている。



上記結果を今後の教育活動に生かします。

後期の学校評価アンケートにもご協力をよろしくお願いいたします。